

2022年度 認定こども園進徳幼稚園自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標（「生きる力」の育成）を掲げている。

1. げんきであかるい子（体）
2. こころのやさしい子（徳）
3. よく考え、工夫し、表現する子（知）

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

本年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に努めつつ、子ども一人ひとりの育ちを支えるためにできることは何かを常に模索し、保育者間で知恵を出し合い検討を重ね、刻々と変化する状況に対応しながら、子どもを主体とした保育を行うことを目指した。更に、このような状況下でも、可能な限り子ども主体の行事開催に努めたことは評価できる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A…達成できた B…概ね達成できた C…概ね達成できたが課題が残る D…努力が必要

評価項目	取り組み状況	評価
「子どもを主体とした保育」の計画・実践に向け、保育者間の連携を図り、引き続き記録を継続し、その記録を有効に活用した保育計画の立案を心がけ、保育の向上を目指す。	学年会議での意見交換や、日々の保育の中での情報交換を積極的に行うことで、子どもを取り巻く問題や課題を共有出来ていた。今後は、その内容を次に繋げられるような記録の残し方を工夫する必要がある。	B
本園の特色ある、工夫された教育・保育内容について、ブログや学年だより（すくすく）、園だより（さくら草）などを通して発信することで、子どもの自主性・主体性を重視した教育・保育内容が保護者に分かりやすく伝わるような表現・工夫を心掛ける。	ブログやお便りの配信を重ねる中で、子どもたちの活動の様子が伝わりやすい写真や言葉を盛り込む表現が見られた。また、月に一度のれんらくノートや日々のれんらくちょうを通して、子どもの自主性や主体的な活動の様子を保護者に伝えることが出来た。	A
感染症（主に新型コロナウイルス感染症）対策について、全般的に見直しをすすめ、職員の知識を高めると共に、確かな最新情報を発信することで保護者の理解、協力を得る。	社会の動向について意識を高く持ち、必要な対策を心がけてきた。特に新型コロナウイルス感染症については対策の改善が必要となり、そのことにより情報の更新し、保護者にはイラストを利用した資料を配信するなどの工夫をした。	A

4. 自己評価結果と分析

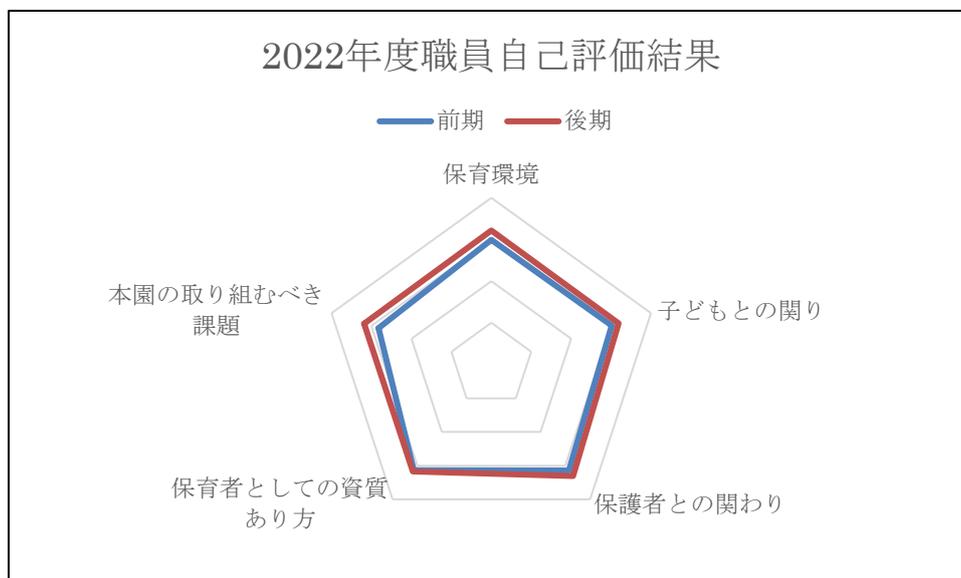
・評価方法

各職員が各自自己評価を行い、全体の集計を出す。

・分析

前期は「本園の取り組むべき課題」の項目の評価がやや低かったが、一次評価基準日に主幹教諭との面談を通して自己の振り返りをしたことで、後期評価に向けての課題が見つかった。明確な課題を持ったことで後期には全項目の評価が上がったと思われる。このことは、保育者一人ひとりが課題を意識し、改善に向けて努力した結果と評価できる。

2022年度職員自己評価結果



5. 今後取り組むべき課題

日々の保育の記録の取り方、活かし方を工夫し活用につなげる。	引き続き日々の保育の振り返りを継続していく中で、出てきた課題などを、学年や園全体ですぐに共有できる記録の取り方、活かし方、更にはそれを次年度に活かしていくことを目指す。
保護者と園が連携し、子どもを主体とした行事を実施する。	これまでの行事を見直し、子どもが主体的に取り組める行事の在り方を保育者間で意見を出し合いながら作り上げていく。また、園が目指す行事の目的を保護者にもわかりやすく伝えていく。
今年度の園の研究課題である食育や食具の使い方について研究を深め保護者と共有する。	子どもたちの食への関心を高めると共に、年齢に応じた食具の使い方の指導を通して、食育教育の在り方を研究していく。また、その過程で得た知識を保護者にも伝え、園と保護者で連携して育てていく。

6. 子ども園評価評議員会 (R5.3.21) による意見

- ・保育教諭の自己評価は教員の資質向上のため、また保育現場の活性化のために必要な取り組みだと思う。自分自身の勤務内容を客観的に振り返り、また上司から具体的な助言や励ましをもらえることは保育教諭にとって大きな成長につながると思う。この取り組みは今後も継続してほしい。
- ・保護者からの園に対するアンケート結果を公表し、保護者からの苦情・疑問点に対する園側の回答を全保護者に配信及び配布することは、課題や問題点が明確になる共に改善策を早急に打ち出すことで保護者からの信頼につながると思う。
- ・アンケートの設問に対して「普通」という選択肢があると、回答者が深く考えず安易に「普通」を選択してしまう可能性がある。回答者が課題に真摯に向き合い、振り返るために「普通」を選択肢から外すことも検討してほしい。
- ・県外保育士による乳幼児虐待問題について、虐待は段階的に行われる。最初から過激な虐待は行われない。早い時期に気づき防止対策をとるなど早期発見・早期対応が必要である。
- ・通園バス園児置き去り事故に関して、驚いたのは担任及び学年主任が欠席連絡のないにも関わらずその子が園に来ていないことに違和感を持たなかったこと。一般の担任だったらすぐに気づき家庭に連絡をすると思う。

7. 財務状況

会計処理についても適切に処理されている旨の報告を公認会計士より受けている。(R5.4.8)